



野鳥観察撮影にSNS情報を活用する

野鳥観察撮影に SNS は便利なツールです。今回は SNS 情報活用のポイントについて話します。

なお、ここでは情報を受ける側についてのみ話し、発信する側については触れません。

●フォローしている人が住む場所を把握するのは大事です。地元情報であればそのまま使え、明記していない人でも、コメントで場所を書いていたたり、知った場所が写っていたりして分かることもあります。

●撮影年月日を明記している場合は（今日も含む）過去のものでも情報として有用ですが、数日、1週間から10日など「ちょっと前」の情報を日時を示さずに上げている写真には注意が必要です。

渡り鳥ではもういなくなっていることもあるし、幼鳥であればその数日で成長し見た目が変わっていることもあり、何かの実を食べている場合はその数日で実がなくなっていることもあります。



オオルリ 西岡公園

●SNS 情報は、北海道では春の渡り鳥の時期に特に有用です。例えばオオルリを今日長崎で見たという情報が上がったとすると、大阪で何日後、栃木で何日、秋田で、函館で、と少しずつ北上してゆくのを追ってゆくことで、札幌にはいつ頃来そうかと予想もできます。

●北海道では逆に、秋の渡り鳥の南下情報には注意が必要です。発信者が本州の人であれば、北海道では既に通過済みでいなくなっている可能性があります。

●北海道は広いので、春の渡りでは、函館には来たけど札幌はまだ、秋では網走には来たけど札幌はまだなど、地域差があることが分かるのも参考になります。

●写真の鳥が何を食べていたかは重要です。どこそこの公園のヨウシュヤマゴボウの実にメメジロが来ているなど、同じ植物が家の近くにあれば来る可能性があります。

2023 年冬、インスタでは札幌近郊でベニヒワがメマツヨイグサの種子を食べる写真が多く上がっていましたが、旭山にはメマツヨイグサはほとんどないため、旭山でベニヒワはほぼまったく見られないといったことがありました。

●SNS では流行りがあります。2024 年秋のトレンドは「シギチドリ」でしたが、過去にはミソサザイ、コサメビタキ、キクイタダキなどを短期間に多くの人が上げていたことがあります。

鳥ではないですが、エゾナキウサギやエゾモモンガは毎年その季節になるともはや風物詩のように多く上がります。シマエナガはいつもです。

●情報を得る上では、鳥や動物がはっきり見えさえすれば、写真の上手下手は関係ありません。情報を上げてもらえることがありがたいです。

今のご時世、SNS といえば炎上や誹謗中傷などが問題視されていますが、情報を発信せず受けるだけと割り切れば有効に活用できます。

ただし、その場合でも「乗っ取り被害」にはご注意ください。



シマエナガ 旭山記念公園



トウネン 石狩市はまなすの丘公園付近



エゾモモンガ

スノーシュー無料レンタルしています

今年も森の家にてスノーシュー無料レンタルしています。

金・土・日・祝朝 10 時から 15 時まで森の家にて受付しています。

今年も、今年こそ、スノーシューで冬の旭山を歩いてみませんか！？



レストハウス「ぽるく」、2025年度は4月オープン予定です。

旭山野鳥メモ 67 シロハラ

シロハラ Pale Thrush *Turdus pallidus* スズメ目ヒタキ科

北海道では春と秋に見られる旅鳥だが関東以西で冬鳥。特に西日本に多く公園や庭先に当たり前にいて、地面で落ち葉をひっくり返して餌を探す鳥というイメージが定着しているという。

かつて北海道では数少ない旅鳥だったが、旭山では20年程前からほぼ毎年春と秋に確認されている。鳥の動きが変わった可能性もあるが、鳥を見る人が増え情報量が多くなったことにより分かってきたと考えることもできる(そのような事例は他の鳥にもある)。

旭山では通常春(4~5月)も秋(10~11月)もマミチャジナイと同じ頃に現れ、1週間から2週間ほど滞在する。しかし今冬は秋に来ず12月中旬になって現れ、1か月以上滞在しまだ見られている。それまで旭山では真冬にたまたま見られたことはあったが、このような動きは初めて。

シロハラと名がつくが腹は中央部の狭い範囲が白いだけで脇腹はベージュ色。名前からあまりイメージが湧かない。脇腹のベージュ色の濃さや範囲には個体差がある。尾羽の先の両端に白い部分があり識別ポイントになる。背中側から見ると灰色っぽく見えることもある。

笹藪では「キュロキュロ」のほか、ミソザイの声を強く大きくしたような「ジュッ」という声でも鳴くが笹藪ではなかなか見つけられない。木にとまっている時は「ツー」と鳴く。囀りは旭山では聞かれたことはない。

大きな目がかわいい。今冬は旭山で多くの人がシロハラを撮れたと喜んでいて。来年の動きはどうなるか。



2025年2月の野鳥トピックス

- シマエナガ：ほぼ毎日出ており低い位置で見られる日もあります
- キクイタダキ：園内の針葉樹で散発的に見られています
- キバシリ：カラマツ林で見られていますが他所では少ないです
- ツグミ：50羽かそれ以上いてナナカマドの実を食べています
- シメ：「学びの森」周辺で見られる機会が意外と多いです
- ウソ：ときどき声が聞かれる程度で今のところ少ないです
- マヒワ：群れが園内でよく見られています (右写真、カラマツ種子を食べる)
- カワラヒワ：12月には10羽以上いましたが、今は数羽です
- クマゲラ：週に何回か園内で近くで見られたとの情報があり今年は見られる機会が多いです
- ミヤマカケス：今年は来ていません ●ヒレンジャク：一度見られたのみでこんな冬は初めてです



雪の上に散らばっているものは何だ？

正解は「マヒワやカワラヒワが食べたシラカンバの種子の食べかす(食べ跡)」です。

写真左：シラカンバの木の下に今の時期こうしてたくさん落ちています。

写真中：左は種子。鳥たちはこれを食べます。マヒワとカワラヒワ以外の鳥はほとんど食べません。

右は種子を包んでいた殻。鳥が翼を広げて飛んでいるような形に見えませんか？

写真右：シラカンバの果実ごと落ちたもので、樹上ではここから嘴で種子をつまみ出して食べます。



公式サイト

「アカゲラ通信」 第136号 2025(令和7)年2月3日発行

(公財)札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>

〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351